

*** 立ち上がれ日本人

東南アジア諸国のなかには、そのリーダーとしての日本あるいは日本人に期待する声があることは意外に知られていない。しかし、過去の統治を通じて日本文化が浸透している台湾（詳細は別稿「はじめての台湾紀行」を参照）をはじめ、ベトナム、タイなど“隣人”と呼ぶにふさわしい国々があることも事実である。ここに紹介するマレーシアもまた、そのひとつといえるだろう。

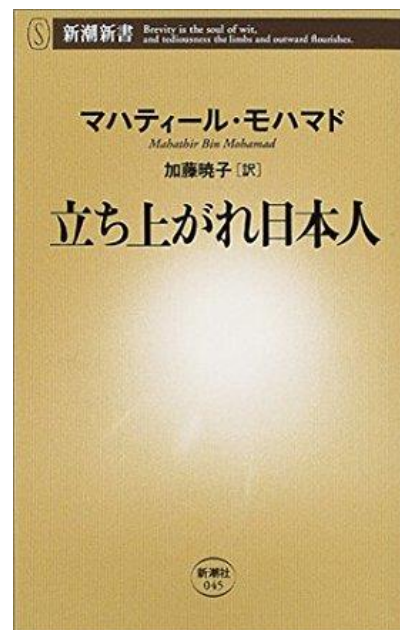
著書紹介を引用して、その神髄に触れてみよう。

○ 愛国心を持って

92歳でマレーシア首相に返り咲いたマハティール・モハマド氏が日本の修学旅行生に向けて語ったスピーチを紹介した記事は大きな反響を呼んだ。

とかく「日本はアジアに謝罪すべきだ。」という声がマスコミでは大きく扱われがちだが、当のアジアの中にも「日本は戦争の贖罪意識から解放されるべきだ。」と語るリーダーが存在することはあまり伝えられない。それゆえに、マハティール首相の言葉は新鮮だったのかもしれない。

そこでマハティール氏の著書『立ち上がれ日本人』（加藤暁子 訳）から、さらに日本人に向けてのメッセージを紹介しよう。前回の首相在任時の発言だが、十分現代の私たちにも訴えてかけてくるメッセージばかりだ。



——愛国心について

「はっきり申し上げれば、いまの日本人に欠けているのは自信と愛国心です。日本が『愛国心』という言葉に過敏になる理由は、私にもわかります。確かに、過去に犯した多くの過ちを認める用意と意思は持たなければならない。しかし半世紀以上も前の行動に縛られ、恒常的に罪の意識を感じる必要があるのでしょうか。

ドイツを見てください。誰が彼らに、戦争中のナチスの残虐な行為を謝罪して回るよう求めているのでしょうか。しかし日本ではどの首相も、2世代も前の人間がやらかしたことを謝罪しなければならないと思っている。これは不幸なことです。

日本が再び軍事大国になることはないという、近隣諸国の不安を取り除くための保証さえあれば、謝罪の必要はありません。」

——日本の首相の在任期間の短さについて

「一人の政治指導者があまりに長く権力の座に居座ると、強権的になり腐敗を招く、という懸念がつきまとうのも事実です。しかし良識ある愛国的な指導者は、自らの権力を

濫用することはありません。

投票による民主的なシステムでは、人気のあるリーダーは政策を十分に実行しうるポストを与えられます。一方、権力を濫用する者は、解任されるか選挙で落とされる運命にあります。」

——日本のアジアでの地位について

「今まさに日本が挑戦すべきことは、東アジアにおけるリーダーの役割を果たすことです。日本には経済的な規模があり、富があり、世界水準の技術力がある。

世界のリーダーとなるには軍事力も必要だという考え方もあるでしょうが、今日の『戦争』は経済的な側面が焦点です。

東アジアだけでなく、世界が日本を必要としています。今日、世界がおかれた状況は修羅場と言ってもいいほどです。自由貿易システムの濫用、投機家の底なしの食欲さ、そしてテロリズム——。日本のダイナミズムと、ひたむきな献身が、まさに必要とされているのです。」

○ 日本の力を忘れるな

——終身雇用の崩壊について

「最近、欧米のメディアが積極的に転職する日本の若い世代を誉めそやす記事を読みました。これは、まったく間違っています。

長年保たれてきた企業と従業員の、よき家族にも似た関係が薄れてしまえば、私たちが多くを学んだ『日本株式会社』もまた立ち行かなくなる。

失業者を増やし、企業と社会の生産性を損なう外国のシステムを、なぜ盲目的に受け入れなければならないのでしょうか。アジアは欧米ではないのです。

日本人は、日本固有の文化にもっと誇りをもつべきです。もし当事者であるあなたがそう思っていないとしたら、私の口からお伝えしたい。

あなた方の文化は、本当に優れているのです。

日本の力を忘れてはいませんか。」

——日本の現状について

「マレーシア経済危機のとき、日本は私たちの味方となってくれました。しかしその日本はといえば、残念ながら私の目からは自分を見失っているように、そして自分の考えで動いてはいないように映ります。

いまのところ日本は、私たち東アジアの国々から生まれた唯一の先進国です。そして、富める国には隣人に対してリーダーシップを発揮する義務があります。潜在的な大国である中国をうまく御しながら、その責務を果たせるのは西側諸国ではありません。それは、東アジアの一員たる日本にしかできない役目なのです。

いつまでも立ち止まっている余裕はありません。それは日本にとっても、東アジアにとっても、世界にとっても、大いなる損失でしかないのです。

最後にはっきりと申し上げたい。

日本人よ、いまこそ立ち上がれ——と。」

日本では不思議なことに、ここに挙げたマハティール首相のようなことを政治家が口にすると、「右傾化」「戦前回帰」「国粹主義的」などと批判されることが珍しくない。とくにメディアにその傾向は顕著だ。

最後に、メディアについてのマハティール首相の言葉もご紹介しておこう。

「世界は西側の価値観に支配されている。メディアはその最たるものだ。」

日本のメディアは欧米のメディアに左右されることなく真実の報道をしてほしい。」

さて、こうした日本、日本人への期待にどのように応えていくのか、応えていくことができるのか、ひとり日本のことにとどまることなく、日本人のありようが我々一人ひとりに問われているのである。日々心して臨まなければなるまい。

20190802 MS生

